

Panasonic

建築設計

REPORT
ARCHITECTURAL DESIGN REPORT
vol.53 2025・05



特集 ─ 新しい働き方と次世代ワークプレイス

熊谷 慶太郎

Kumagai Keitaro [WeWork Japan 代表取締役社長 兼 CEO]

異業種交流がイノベーションを生み出す
フレキシブルオフィスのコミュニティ

パンデミック以降に普及したリモートワークの限界が指摘され、現在は同僚とのコラボレーションや生産性向上に重要な役割を果たすオフィスの価値が再評価されている。コミュニケーションの視点からも注目されているのが、フレキシブルオフィス。ここは多様な業種・業態や職種の人びとが集まる場で、異なるバックグラウンドを持つ入居メンバー同士が日常的に交流することで新たなイノベーションが生まれる。コミュニティがビジネスを変えるワークプレイスとは、どのような空間なのか。WWJ株式会社(WeWork Japan)代表取締役社長兼CEOの熊谷慶太郎氏にコミュニティ型フレキシブルオフィスの可能性をたずねた。

急成長する フレキシブルオフィス

— WeWorkとは、どのような企業なのですか。
WeWorkはフレキシブルオフィスを展開する企業で、2010年にニューヨークで設立され、2025年2月時点で世界35カ国以上で約600拠点が開設されています。主要国の中で進出が後発だった日本では、2018年に初めてアーチヒルズサウスタワーに1号店をオープンしました。内装からWi-Fi環境、什器まで全てがセットアップされており、契約翌日からでも仕事が開始できる環境を提供しています。執務室部分は入居メンバーが自らセキュリティを担保して事務所として使えますが、ラウンジや会議室などの施設は全てシェアリングしており、非常に効率的な働き方ができるのが特長。また、カード1枚で世界中の拠点を利用できるのも魅力の一つです。

私は以前、拠点開設の不動産部門と営業部門の責任者を務めており、2024年にCOOになったことで業務範囲が広がりました。フロント業務の全てと、マーケティング・広報、不動産、営業、コミュニティー、そしてプロダクトまで担当することになりました。2024年にWWJがソフトバンク株式会社の100%子会社になりましたが、それ以前はグローバルに連絡していたので、各組織は縦割りで、各部門にKPIがあり、グローバルスタンダードのルールに則って各国のWeWorkが運営していました。そのうちの一つが日本でした。そこで、縦割りだった組織を横断する「Growth」というチームをつくり、横連携できる仕組みに変えました。COOになって最初に取り組んだ拠点が、名古屋駅直結・JRセントラルタワーズのオフィスフロア最上階、50階にオープンしたWeWork JRセントラルタワーズ名古屋です。オフィス設計やデザインを担うのはプロダクトチームですが、今回は営業や不動産のニーズ、コミュニティやマーケティング要望を反映するための会議を数多く行つて名古屋拠点を設計しました。この50階はフロア形状の一部が扇形で眺望に優れた素晴らしい物件です。私たちは、入居メンバーの皆さんのが快適で働きやすい環境づくりを大切にしているので、その扇型の形状を活かしたプライベートオフィスを配置して、プレミアム感を提供できるようプロダクトチームに依頼しました。その結果、開放感の溢れる素晴らしいオフィスが完成しました。これは、新体制になったからこそ実現したと言えるでしょう。

CONTENTS

特集:新しい働き方と次世代ワークプレイス

SPECIAL INTERVIEW	
熊谷 慶太郎 氏	1
SPECIAL EDITION	
次世代ワークプレイスのABW空間	5
FLEXIBLE WORK AREA	7
COLLABORATION AREA	9
FOCUS AREA	11
REFRESH AREA	13
SHIBUYA QWS	15
SHIOMER	19
くらしは文化	
京都府庁旧本館	21

*本誌では略称を用いています。また、一部敬称は略させていただきます。

表紙写真:WeWork 赤坂グリーンクロス



コミュニティが WeWorkのコンセプト

—なぜコミュニティを重要視されているのですか。

WeWorkでは「コミュニティ」を大切にしています。世界中の拠点には入居メンバーをサポートするコミュニティチームが常駐しています。入居メンバー間のコラボレーションを積極的に支援したり、自然な交流が生まれる仕掛けを作ったりなど、WeWorkらしいカルチャーの醸成に努めています。WeWork Japanは国内7都市に約40拠点を開設していますが、それぞれのコミュニティチームは月に約200回、年間で合計2千から3千回のイベントを開催してマッチングやプロモーションを後押ししています。このハードとソフトの融合がWeWorkの魅力でしょう。国によってコミュニティのあり方はそれぞれ違いますが、開催しているイベントの回数は、世界中でもトップクラスではないでしょうか。私たちがサポートしているイベントの内容は本当にさまざま、コミュニティチームで企画するものもあれば、入居メンバーが企画するものもあります。ビジネス寄りにテーマを絞ったものから、趣味をテーマにしたサークル活動もあり、入居メンバー同士の異業種交流会も開催されています。また、大企業がスタートアップとの接点を持つための、新規事業開発の拠点として活用されるケースもあります。

クリエイティビティを刺激する 多様な環境を提供

— WeWorkはカジュアルな雰囲気ですね。

WeWorkではクリエイティブな発想が必要な時のために、共用エリアをどのように充実させるかに重点を置いています。音楽を流しているのもそのためで、五感に訴えるように意識して、照明も暖色を使って従来のオフィス環境とは異なる空間にしています。また、テラスがある虎ノ門、屋上庭園から横浜ベイブリッジが目前に望めるみなとみらいなど、景観が良い物件や特色のある空間を選ぶことで、創造性を刺激する環境づくりに配慮しています。また、渋谷スクランブルスクエアだと計7フロアがWeWork拠点で、そのうち5フロアを屋内階段で



WeWork赤坂グリーンクロスの共用エリア。
写真奥のカウンターでは16時以降ビルが無料で楽しめる

熊谷 慶太郎 氏

不動産会社において、開発・売買・賃貸などに従事した後、大和リアル・エステート・アセット・マネジメント株式会社でJ-REITなどの不動産投資運用実務を重ねる。2019年、WeWork Japan合同会社入社。Real Estate部門でWeWorkの拠点開設に従事した後、Sales部門を兼務し、Head of Real Estate & Salesに就任。2024年4月に、新体制となったWWJ株式会社（ソフトバンク株式会社100%子会社）にてCOOに就任し、2025年3月に代表取締役社長 兼 CEOに就任。不動産業界経験20年以上。



つないでいます。それぞれのフロアは雰囲気が異なり、ベンチャーから大企業まで、1拠点で約200社が利用していますが、生産性が向上する仕掛けを数多く設けています。さらに、当社は多様な働き方をサポートすることを考えていて、子ども連れでも働けるように授乳室も設けています。入居された日本の大企業も、当初はスーツにネクタイ姿で「ザ・日本企業」という雰囲気でした。しかし現在ではカジュアルになり、イベントへの参加も積極的になっています。このように多様性に影響を受けるのもWeWorkの魅力だと思っています。

新たな人材に出会える コミュニティ空間

— 人材確保という視点からも効果があるようですね。

現在どの企業でも、AIやDXを担う人材を採用したいが難しいという状況にあります。その一つが自動車メーカーで、単独で採用イベントを開催するのではなく、ゲームメーカーなどの異業種間で一緒にWeWorkで採用イベントを開催するケースもあります。これにより、ゲームメーカーをめざしていた人材が「自動車メーカーってこんな新しいことに取り組んでいるんだ」と知り、関心を持つきっかけになります。すると、これまで想定していなかったスキルを持った人材が確保できます。ある自動車メーカーは、工場勤務で、制服も作業着だったので女性の採用が一切進まなかったようです。それがWeWorkに拠点を構え採用活動することにより素晴らしい実績になったと伺っています。現在では、多くの自動車メーカーにWeWorkを活用いただいている。こういうことが、新しい技術開発や商品開発につながるのではないか。偶発的コミュニケーションが起きる、そのための仕掛けがあるのがWeWorkです。

スマートビルを支える Proptechの導入

— 不動産とテクノロジーの融合がテーマと伺いました。

2000年、日本にも不動産投資信託を行うJ-REITが誕生。もともと米国などで行われていた不動産を小口化・証券化するビジネスが初めて日本でスタートしたのです。不動産という流動性が低いものを流動化させる仕組みができ、不動産出身の私は金融出身者と机を並べて不動産投資運用などをを行うようになりました。その不動産証券化が今では普及し、成熟しました。現在注目しているのが、不動産(Property)とテクノロジー(Technology)を組み合わせた、不動産業界におけるデジタルソリューション、プロップテック(Proptech)です。私は、不動産と金融が融合したように、不動産とテクノロジーが融合すると思っていますが、日本ではまだ普及していません。このプロップ



ガラスパーティションで仕切られた各プライベートオフィス。廊下には多くのネットワークカメラが設置されているが、室内映像は撮れないようにマスキングされている

テックにチャレンジしているのがWeWorkです。オフィスの施設や設備の利用データは次のオフィス設計やレイアウト変更に関わってきます。ソフトバンクもスマートビル事業を強化しており、WeWorkはソフトバンクとの共創により、オフィスDXを強化したいと考えています。2025年2月に新しくオープンしたWeWork赤坂グリーンクロスでは、その第一弾となるオフィスDXの実現に向けて動いています。このビルは、株式会社日建設計とソフトバンクの合弁会社であるSynapSpark株式会社が手掛けるスマートビルとして、「Autonomous Building(オートノマス ビルディング)」の実現を目指しています。スマートフォンと同様に、ハードは経年劣化していくますが、OSのアップデートでビルの価値を高めていく考え方です。この拠点を皮切りに、新しい取り組みを推進していきたいと思っています。

地方に活力を与える 拠点創出も検討

— 今後の展望をお聞かせください。

日本にある約40の拠点のうち約30拠点は東京にあります。2018年から日本で展開していますが、まず東京で地盤を固めました。昨年にソフトバンクの100%子会社になったことで、現在は財務基盤も安定して、これから地方にどのように進出していくかを検討しています。最近、地方のさまざまな自治体によるWeWorkへの入居が増えています。都心でPR活動をするだけでなく企業と知り合ってマッチングされる試みが増えているのです。WeWorkとは、ただ働く場所があるというだけでなく、趣味なども含めた暮らしの部分にも近い存在であることが大事だと思っています。普通に考えると主要ターミナル駅周辺に開設していくようなイメージがあると思われますが、そうではない展開を検討しているところです。私たちは今、全国を飛び回って地方自治体と対話を繰り返しながら連携を探っています。コワーキングスペースやインキュベーション施設は全国的に増加していますが、最初に「箱」を作ってしまい、中にコンセプトやコミュニティがないまま形骸化していくことが起きていました。逆に私たちはコミュニティをずっと創ってきたのでノウハウがあります。既存のWeWorkコミュニティを活かした、新たな地方展開戦略の検討を進めているところです。

— ありがとうございました。

ワークプレイス
メイキング
をめぐる旅
A journey through workplace making



Vol.03 公開中
多拠点を行き来する働き方の可能性
「TRIKKA TABLE & STAY」

【予告】Vol.04
WeWorkが拓く新しい働き方
「WeWork赤坂グリーンクロス」
WeWorkの魅力を深掘り!
子どもも働くオフィスとは。
【6月下旬公開予定】



A Activity B ased W orking

次世代ワークプレイスのABW空間

オフィスにおける新しい空間設計

近年のオフィスでは、オープンエリアやフレキシブルワークエリアへの移行が進んでいる。オフィス内を複数のエリアに分け、業務内容に合わせて働く場所を選べるABWの考え方も浸透してきた。たとえば、オフィスをコラボレーション（協働）エリアやフォーカス（集中作業）エリアなど目的別に分け、社員が自席にとらわれずに働ける最適な環境を提供している。このようなフレキシブルスペースをワーカーがカジュアルミーティングや個人作業などの状況に応じて使い分け、コミュニケーションを誘発することで、生産性と快適性を向上させている。

コラボレーションを促進するデザイン

センターオフィスではコラボレーションを促す空間デザインが重視され、チームがすぐに集まって議論できるようにオープンスペースエリア内に大小さまざまな規模と機能を備えた、多様なデザインのミーティングスペースが配置されている。また、執務エリアの近くにソファやハイテーブルを備えたカジュアルなリフレッシュスペースやカフェを設け、偶発的なコミュニケーションを生む配慮もされている。このようなオフィス内のサードプレイスは、社員がリラックスしながら、部門を超えたコミュニケーションができる場であり、新しいアイディアを創発する場として捉えられている。

自然と共生する執務環境

多くの調査で「オフィス環境の満足度が高い企業ほど従業員エンゲージメントや業績が高い」傾向が報告されており、心や身体を健やかにするWell-Beingの視点がオフィス計画の重要な要素として認識されつつある。この視点から、オフィス空間に植物や自然光を取り入れるケースが増えており、メンタルヘルスの改善など、多面的に心身に良い影響が生まれるとと言われている。また、視界に「緑」があるだけで集中力が高まるという研究結果もあり、BGMとして森の音や小鳥のさえずりを流すケースも増加している。事実として、WELL認証やLEED認証では、自然を活用した「バイオフィリックデザイン」が評価概念として含まれている。

スマートオフィス技術の活用で脱炭素化を推進

次世代オフィスでは、IoTセンサやAIを活用した技術により、空間の有効活用と快適性向上が図られている。人感センサや温湿度センサ、照度センサなどを配置することで社員の出勤状況なども把握。デスクの空き情報をデジタルサイネージやアプリで案内したり、照明・空調を自動制御したりする仕組みも導入されている。また、オフィス内各所に設置された各種センサはスペースの利用率データをリアルタイムに収集。デスクの予約状況やフロアの滞在人数、会議室の利用頻度までを把握でき、そのデータを

もとにオフィスマネジメントの効率化やレイアウトの改善が可能になる。また、センサが一定時間、人の不在を検知すると照明や空調を自動でOFFにし、省エネと安全管理も両立。このように、センターおfficeでは空間デザインだけでなく、テクノロジー面から、快適性を追求しながら省エネ技術の進化により、脱炭素化が進められている。

働き方の再定義

次世代ワークプレイスの空間設計とは、単にオフィスの見た目を近代化するだけでなく、働き方そのものを再定義することがベースにある。オフィス空間を社員の創造性やエンゲージメントを高める「装置」として捉え、テクノロジーとデザインの力で働く体験を向上させること。それが次世代ワークプレイスを先導する企業の戦略と言えるだろう。さらに、脱炭素社会実現のためのZEBを実現すると同時に、Well-Beingな環境の提供も求められている。オフィスは単なる「働く箱」ではなく、働き方改革と社員の幸運、そして企業の成長を支える戦略的リソースとなりつつある。今後も技術の進化や価値観の変化に合わせて、AIを活用したビル設備の自動最適化やバーチャルオフィスとの融合など、ワークプレイスはダイナミックに進化していくだろう。

ここでは、これまで当広報誌「建築設計REPORT」や事例集に掲載してきたワークプレイスの事例から、各ゾーンやエリアを紹介していく。



Well-beingな働き方を実現する自由度の高いシェアフロア【パナソニック東京汐留ビル PERCH LOUNGE】



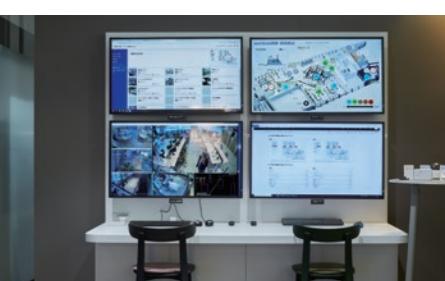
運動により健康を促進するために設けられた屋内螺旋階段【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



自然を意識させるシンボルツリーが置かれたコミュニケーションゾーン【パナソニック東京汐留ビル】



各階の温湿度やCO₂濃度など、空気環境が一目で確認できるサイネージ【TO-REI 成長支援センター】



オフィスの混雑度と環境計測を行う「空間見える化ソリューション」【worXlab】



大規模な躯体改修を行わず設備改修と運用によりZEB化を実現【パナソニック京都ビル】

vol.53

PDFより各画像を掲載した記事へリンクしています。

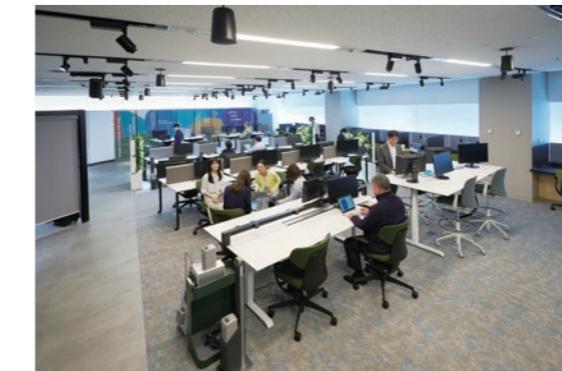
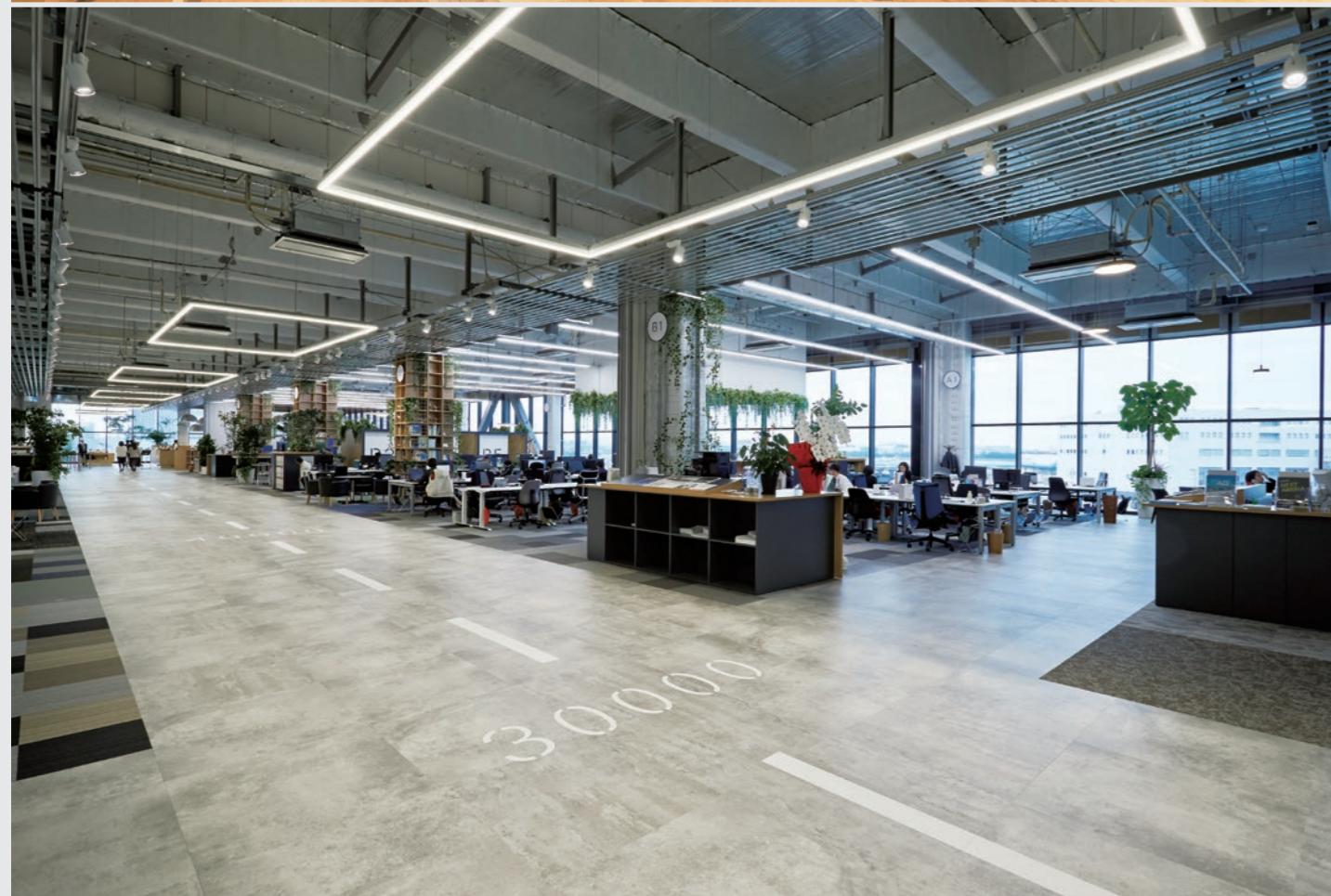
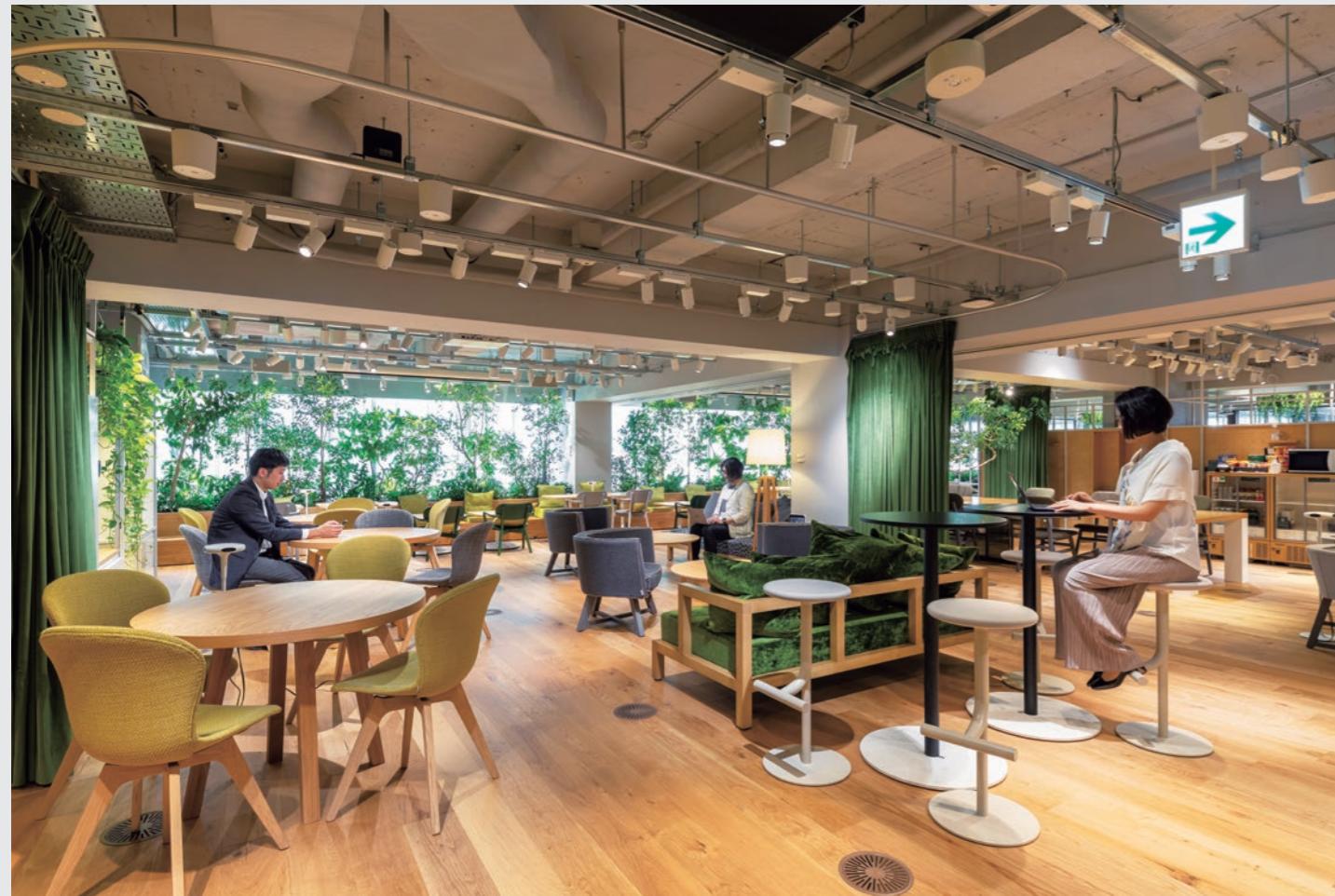


FLEXIBLE WORK AREA

フレキシブルワークエリア

壁や仕切りが少なく、ワーカーが自由に交流できる開放的なエリア

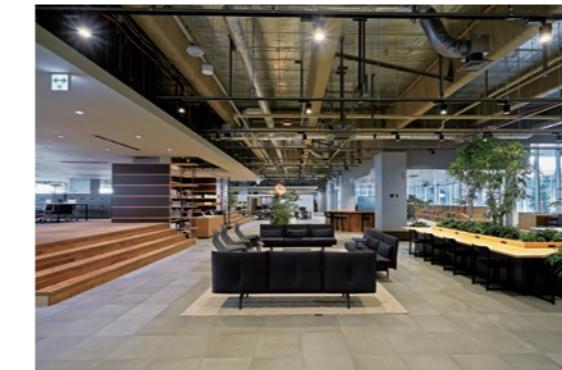
フリーアドレス制が採用されチーム間のコミュニケーションがしやすい空間設計



光と音で働く環境をゾーニングできる執務エリア【worXlab】



県産材の木製ルーバーに設置したベース照明とスポットライトの組み合わせでリラックス感と集中を両立【奈良県庁 本庁舎】



フロアに高低差をつけることで、開放的な執務エリアと左階段上の集中作業エリアを緩やかにゾーニング【KADOKAWA 所沢キャンパス】



開放的なコワーキングスペース【KADOKAWA 所沢キャンパス】

約120m²のコミュニケーションゾーン【3×3 Lab Future】

車載電池をモチーフにしたセンターサークルの下に作業スペースやライブラリなど多様な機能を集約【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



コラボレーションエリア（左）とセミナールーム（右）を仕切る書棚横に設置された植栽一体型の「環境音ソリューション」（写真右）【パナソニック オペレーションエクセレンス リクルート&キャリアクリエイトセンター】



vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上)利用者が自由に席を選んで働けるフレックススペース【point 0 marunouchi】
(下)約5,300m²のメガプレート・オフィスを、各部門をつなぐ4本のランウェイが交差する【梓設計 本社】

COLLABORATION AREA

コラボレーションエリア



状況に応じたスタイルのミーティングができる多様なエリア

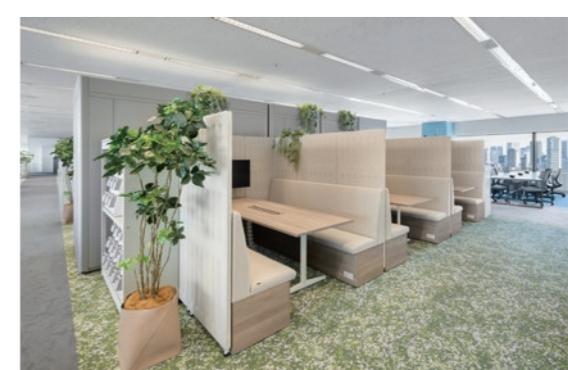
小規模なチームによるカジュアルな打ち合せができるスペースや半個室の静かなミーティングスペース

プロジェクター投影時もデスク上の照度が確保できるプレゼンコーナー
【奈良県庁 本庁舎】

天井照明によって最適な環境を演出する会議室【PERCH LOUNGE】

ミニパーティーにも利用できる個室会議室
【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】「イープロック」で電源供給する窓際のボックス席
【パナソニック名古屋中村ビル】

画面に光源が映り込まないグレアカットタイプの小型シーリングライトが配置されたミーティングやイベントなどに利用される多目的ブース【中電工業】

開放的な空間でソロワークもできるリラックス集中ゾーン
【パナソニック東京汐留ビル】太陽・風など自然の色をタイルカーペットに採用した会議室
【パナソニック エナジー セル開発統括本部】高いパーティションと背後の「SOLO BASE」を壁にして音漏れに配慮した
ファミレス席【パナソニック東京汐留ビル】

vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上)「加速エリア」と名付けられた、課単位のフリーアドレスフロア【パナソニック エナジー セル開発統括本部】

(下)各エリアから集まりやすいフロア中央に配置されたテーブルには「環境音ソリューション」が組み込まれている【パナソニック名古屋中村ビル】

FOCUS AREA

フォーカスエリア

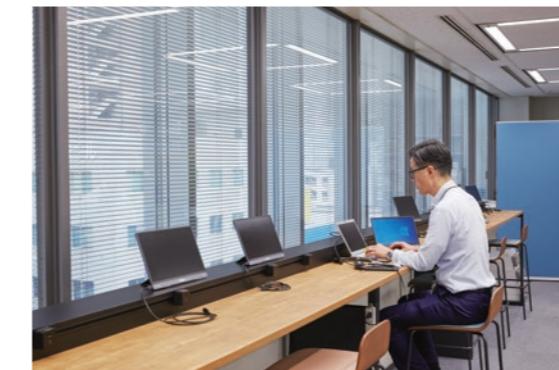
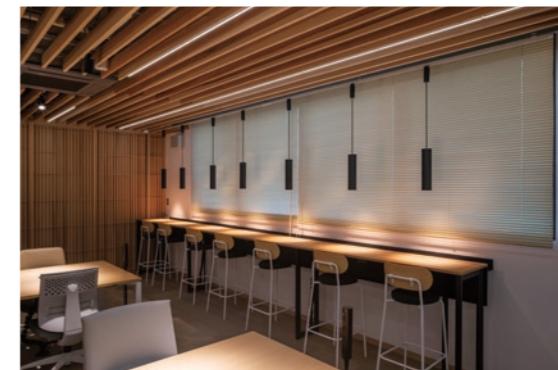


静かな環境で集中して作業できるエリア

ノイズを最小限に抑えた環境を提供し、Web会議を行うワークブースなどの設備も配置



窓際集中ブースで机上面を照射するLEDペンダントライト【中電工業】

利用頻度の高いソロワークスペース
【パナソニックインダストリー 西門真拠点オフィス】ロッカを撤去して明るい窓際に作られたハイカウンターの作業スペース
【パナソニック名古屋中村ビル】窓際のペンダントがカフェのような光環境を創り出している
【奈良県庁 本庁舎】手元作業用のタスク照明と大型モニタが設置された個室
【阪急阪神ONS 千里中央】Webミーティングにも利用される防音の「フォンブース」
【point 0 marunouchi】

窓側の集中ゾーン「プラクティス」。プランターBOXの柱側にスピーカー開口部があり、環境音が柱に反響してゾーンを包み、外からの音をマスキングする【日建設計コンストラクション・マネジメント 大阪オフィス】



vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上) コミュニケーションゾーンに設置されたWeb会議も可能な「SOLO BASE」(写真奥)【パナソニック東京汐留ビル】
(下) 17個の個室が配置されたサテライトオフィスは顔認証で入室が可能【阪急阪神ONS 千里中央】

REFRESH AREA

リフレッシュエリア

カフェスペースやラウンジエリアを設置してワーカーがリフレッシュできるエリア
グリーンを配したり屋外環境を利用することでリラックスしやすい環境を整備



物流倉庫のトラック駐車スペースの段差を利用したラウンジ【梓設計 本社】



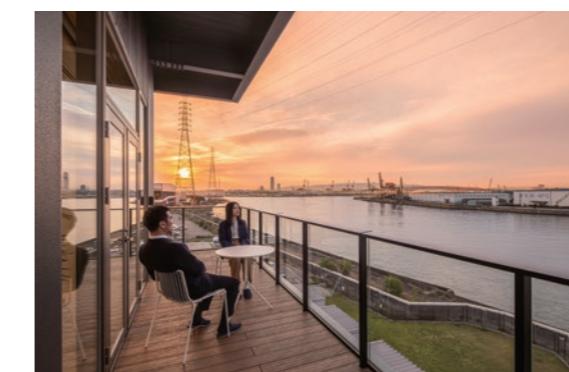
リラックス、リチャージ、コミュニケーションで脳の切り替えを促す
「SWITCH SPOT」【パナソニック東京汐留ビル】



間接照明とダウンライトで構成された開放感のある7階ラウンジ
【MFLP船橋Ⅲ】



交流ゾーンと集中ワークゾーンの間に配置されたマグネットスペース
【パナソニック インダストリー 西門真拠点オフィス】



仕事疲れをリフレッシュする北に面する木津川の外部テラス
【パナソニック エナジー 住之江 生産プロセス開発棟】



大手町の夜景により気分転換を促す屋上のLOUNGEエリア【大手町ビル】



光・空気・音・香り・映像で没入感のある環境をつくり
短時間で気分転換を促す空間【worXlab】



社員などの自己紹介を流す「ランターナ」(画面右)がコミュニケーションを活性化する「メリティカフェ」【NTTデータMSE 横浜オフィス】

vol.53
PDFより各画像を掲載した
記事へリンクしています。



◀ (上) エントランスに設けられたカフェとライブラリー【KADOKAWA 所沢キャンパス】
(下) 交流の場と位置付けられ、「エアリーソリューション(写真右奥)」も設置されたラウンジ【CBRE RISE Café】

SHIBUYA QWS





多彩な人びとが交差・交流し、 問い合わせを課題解決につなげる共創施設

渋谷スクランブルスクエアの15階フロア全体(約2,600m²)を占める「SHIBUYA QWS」は、年齢や専門領域を問わず、渋谷に集い活動する人たちの拠点。コミュニティコンセプトを「Scramble Society」として、グループ間の交流や領域横断の取り組みにより、クリエイティブ人材の育成も含め、未来に向けた価値創造活動を加速することが意図されている。

渋谷キューズ エグゼクティブ ディレクターの野村幸雄氏は「アート、デザイン、サイエンス、エンジニア、ビジネスも含めて多様なバックグラウンドを持つ人たちが、立場を超えて対話できるコミュニティをめざしたので、空間には極力壁を造らないように計画した」と語る。

人びとが行き交うオープンな空間でワークショップやトークセッションの場としても活用できるCROSS PARK、チームに合わせてレイアウトできる可動式テーブルを備えた新しい価値創造に取り組む場としてのPROJECT BASE、200名規模のセミナーやイベントが開催できるSCRAMBLE HALLなどが設けられている。

大学や海外類似施設など、幅広い領域のパートナーと連携する、キューズチャレンジやスクランブルミーティングなど、多種多様なプログラムが用意されている。

個人会員以外にも現在86社^{*}の法人会員(企業・自治体)が参加し、競業する同業他社が空間を共有して同居している。また、この施設はZ世代の会員が多いため、企業は若者層のマーケティングからテスト、フィードバックまでを日常的に実施。地方自治体は関係人口を創出するためのイベントを開催し、新産業のスタッフをここに招いて事業会社や投資家と会うセッションも行っている。さらに、各分野のエキスパートであるコモンズ会員は、プロジェクト会員の相談相手ともなる憧れの存在であり、BOOSTER OFFICEの法律事務所や投資家などとともに、会員の支援にあたっている。

「ここでクリエイティブ人材が育ち、新しい社会活動に挑戦できるよう新しいプログラムも開発し、支えて行きたい」と野村氏は語る。

*2025年4月現在

◀ (上) 可動式のテーブルやホワイトボード、FAB ROOMを備え、さまざまなプロジェクトに合わせた活動が行える PROJECT BASE
 (下) スクランブル交差点を望む SCRAMBLE HALLは、セミナー・イベントなどが行える200名規模のイベントスペース



SHIBUYA QWS(渋谷キューズ)

所在地 / 東京都渋谷区渋谷
 事業主 / 渋谷スクランブルスクエア株式会社
 内装設計 / DOMINO ARCHITECTS+山本基揮建築設計
 内装工事 / 渋谷駅街区東棟新築工事共同企業体
 (東急建設、大成建設)
 オープン / 2019年11月



3Dプリンターやレーザーカッターも備えた
FAB ROOM



食を介したコミュニケーションが生まれる
CAFE HinT



スクランブル交差点が一望できる
窓際のスタンダード席



集中したい時にこもれる隠れ家ののようなスペース

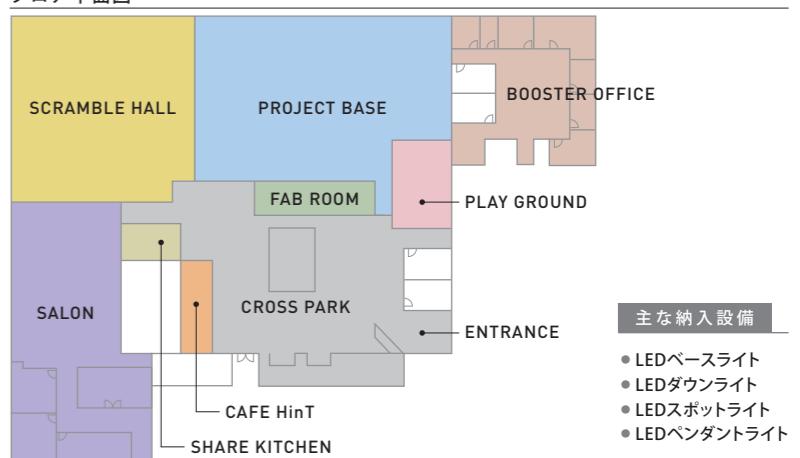


レストランとしての利用や商談などにも利用できる
SALON。MODIFYの円形照明が空間のアクセントに



会員をサポートする法律事務所や投資家などが
入居しているBOOSTER OFFICE

フロア平面図



主な納入設備

- LEDベースライト
- LEDダウンライト
- LEDスポットライト
- LEDペンダントライト



イベントにも利用できる「OCEAN/co-creation」エリアは、フレキシブルに共創空間をつくるSHIOMERの象徴的空间

SHIOMER

新時代の「潮目」をともに創る 共創型の新R&D拠点を開設

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社は、顧客企業やパートナー企業との「共創」により、新しい価値やソリューションを生み出すとともに、ソフトウェア技術者の採用活動の強化をめざし、新R&D拠点「SHIOMER」を2024年12月に開設した。ここでは、人脈や情報を集積する「ネットワーキング」、新事業に欠かせない「顧客企業やパートナー企業との連携」、多様な社会課題や問題意識への「ビジョンを共有する企業との協働」という、3タイプの「共創」に取り組む。新拠点では、まだ世に出ていない技術を

ソリューションの形にして発信。照明と空調のゾーニング制御や音環境の連携制御、局所的な温熱環境改善、照明演出など、エネルギー利用の高効率化とWell-Beingな働き方を両立するソリューションを提供。また、各個人のワーク環境や出社状況に応じた省エネ制御、人流制御など、提供価値をリアルタイムに検証することで、スピーディーな事業化も検討する。異なる分野の多様な人たちとの共創を、異なる潮が集まり、混ざり合い、豊かな海を形成する潮目にたとえて「SHIOMER」と名付けた空間は、「みんなで創る、次の潮目」をコンセプトに、ともに潮目を読み、産み、変える拠点となると期待されている。

SHIOMER(シオメル)

所 在 地 / 東京都港区芝浦(田町ステーションタワーN 21階)
事 業 主 / パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社
オフィスデザイン / 株式会社ロフトワーク
開 設 / 2024年12月
規 模 / 床面積: 約870m²



エントランスでは天窓 Visionや照明・香りの演出で来訪者を迎える。社員は顔認証システムで入室する



五感を刺激する心地良い空間「センサリールーム」



マグネットスペースのカウンターに配置された次世代照明「ランターナ」



緑に囲まれ海を望むリフレッシュエリア「CAPE/chill」



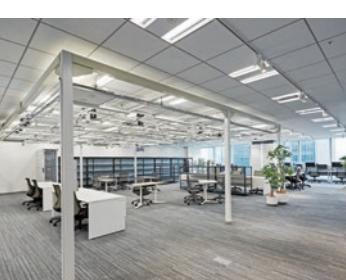
集中エリアではオープンとクローズドの空間を設け、ワーカーは自分に合った作業環境を選択できる



片面をガラスパーティションにした開放的なミーティングルーム



Web会議の声が漏れない「SOLO BASE」



天井の電源ダクトトレールに容易にアクセスできるキッティングエリア「DECK/development」

主な納入設備

- LED照明器具
- 照明制御システム
- 環境音ソリューション
- スポット気流
- ランターナ
- SOLO BASE
- ネットワークカメラ
- センサリールーム

SHIOMERのWebサイトで
さまざまな情報が
ご覧いただけます



京都府庁旧本館



京都御所の西方に位置する京都府庁旧本館は、当時の西洋建築技法の粋を集めて建てられた。レンガ造(一部石造)、外壁は擬石モルタルで、正面を数々の装飾が彩る。



江戸時代の役所・京都守護職の上屋敷跡に建つ旧本館。55の部屋には知事室や正庁、議長室などがあった。現在も執務室として利用されている。



マンサード屋根を頂き、建物北側に突出して建つ議事堂。庁舎と議事堂が同一建物に収められているのは当時、先進的であった。

正庁は2階中央にあり、その大屋根に三角形のペディメントが載る。漆喰で精巧な装飾を施したもので格式の高い建物に多くみられる。



大屋根の屋根棟飾りはアカンサスがモチーフ。

大屋根のドーマー。換気用で中に部屋はない。

日本人が建て、後世の模範となった明治期の西洋建築の官公庁舎

京都府京都市の京都府庁旧本館は、京都府技師であった松室重光の設計で明治37(1904)年に竣工。行政府と立法府を一体化した、ルネサンス(一部ネオ・バロック)様式の建築で、日本人による西洋建築技法習得の到達点の一つと言われる。国指定重要文化財。

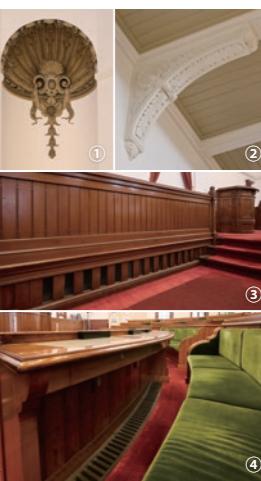


大理石の手摺子や親柱に手の込んだ彫刻が見られる大階段。窓から桜が見える。



昭和44(1969)年まで使われた旧議場。議長席を中心約60の議員席を半円形に配置、吹き抜け2階部分に傍聴席を設ける。

①ニッチ②持ち送りの装飾にもアカンサスが見られる。③理事席下部の排気口。④議員席の足元には温風が出る送風口がある。



⑤2階の傍聴席へ続く階段。⑥回廊のアーチ越しに望む中庭は7代目小川治兵衛が手がけた。



正庁では公式行事や重要な会議が行われた。折上小組格天井といった日本建築の技法も見られる。⑤天井の鏡(こで)絵。⑥扉上部のペディメント。



風格ある造りの旧知事室。暖炉や調度の意匠も秀逸。約67年間に24人の知事が執務した。

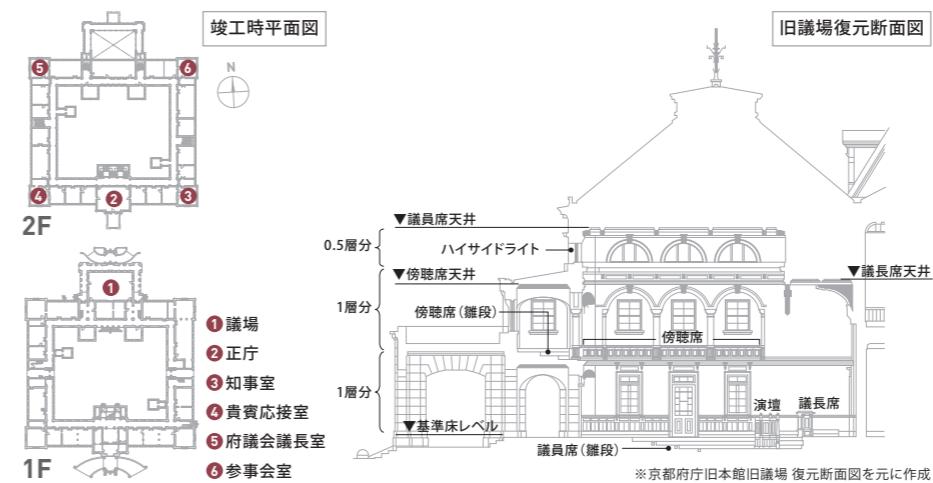


⑦2階の傍聴席へ続く階段。⑧回廊のアーチ越しに望む中庭は7代目小川治兵衛が手がけた。

京都府庁旧本館の正面を飾るのは、精密な彫刻を施したペディメントや丸窓、円柱で支えられた石造りのバルコニー。また、ドーマーを配した大型の角型マンサード屋根に鱗状のスレートを葺き、その左右には建物の両翼がシンメトリーに伸びるなど、ルネサンス様式(一部ネオ・バロック様式)の特徴が随所にちりばめられている。竣工当時は明治政府の整備が進んで行政事務が増大。新時代の要請に応える西洋建築で、大規模な官公庁舎の建設が求められていた。京都府庁も前代は木造で議場も備わっていなかったため、新庁舎の建設が

必要であった。設計は辰野金吾の教え子で京都府技師の松室重光である。建物は口字形の平面を持ち、中央を西洋風の整形式庭園として、南側が正面、北側から突出した位置に議事堂がある。2階正面中央の正庁は最も広く、格式が高い部屋で、大正・昭和両天皇の即位の礼の際に内閣の閣議が開かれたほか、公式行事や公賓の接遇などが行われた。南東角の知事室にも重厚な回り縁や格天井といった意匠が凝らされ、明治期を代表する西洋家具の製造業者・杉田幸五郎の製品が置かれている。議事堂は旧本館と接続して

いるが、マンサード屋根が旧本館とは別に架かり、独立した棟のように見える。館内の議場は白漆喰の飾り壁や彫刻で仕上げた2層吹き抜け空間。階段状に並ぶ5列の議員席が、アーチを描いて議長席や理事席を取り囲んでいる。2階には丸鋼管の列柱とアーチをしつらえた傍聴席があり、その上の高窓から外光が差し込む。電気のシャンデリアやスチームによる全館暖房設備も整っていた。当館は竣工120年を超えた今も当初の姿をとどめる現役で日本最古の官公庁舎として貴重。今後もその歴史を刻んでいく。



用語説明

- 【ルネサンス様式】15~17世紀初頭にイタリアを中心に広くヨーロッパに普及した建築・美術様式。古代ギリシャ・ローマ様式を復興させ、建築ではシンメトリーとバランスを重視した。
- 【ネオ・バロック様式】ヨーロッパの19世紀後半に見られる芸術の一傾向で、バロック的な動感豊かな表現をめざすもの。
- 【松室重光】1897(明治30)年、東京帝国大学造学科卒業。京都府技師に着任後、古寺の修復を手掛けながら武徳殿や京都ハリストス正教会などの設計にも携わった。
- 【整形式庭園】明治期に入ってきたフランス式幾何学庭園の影響によって始まった、大胆に直線や人工的な曲線・曲面を取り入れた庭園。
- 【7代目小川治兵衛】明治~大正期を代表する庭師。平安神宮神苑、山縣有朋別邸の無鄰菴庭園なども作庭。

※京都府庁旧本館旧議場 復元断面図を元に作成
京都府京都市上京区下立売通新町西入
協力: 京都府



パナソニックの空間ソリューション



あかりと電気設備のデジタルショウルーム 電気設備BOX



パナソニック エコシステムズ ショウルーム

〒486-8522 愛知県春日井市鷹来町字下仲田4017番



カスタマーエクスペリエンスセンター (パナソニック コネクト株式会社)

〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目21番1号
住友不動産汐留浜離宮ビル
☎ 0120-878-410



※開館日や時間を変更したり、事前で予約制とさせていただく場合があります。
ショウルームご来場の際には、ウェブサイトで事前にご確認ください。

パナソニック ショウルーム 住まいのショウルーム

札幌

〒060-0809 札幌市北区北9条西2丁目1番地
☎ 0570-087-315

仙台

〒980-0014 仙台市青葉区本町2丁目4番6号
仙台本町三井ビルディング内
☎ 0570-087-315

東京 (汐留)

〒105-8301 東京都港区東新橋1丁目5番1号
パナソニック東京汐留ビルB2F
☎ 0570-087-315

横浜

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい3丁目3番3号
横浜コネクトスクエア2F
☎ 0570-087-315

名古屋

〒450-8611 名古屋市中村区名駅南2丁目7番55号
☎ 0570-087-315

大阪

〒540-6303 大阪市中央区城見1丁目3番7号 松下IMPビル3F
☎ 0570-087-118

広島

〒730-8577 広島市中区中町7番1号 パナソニック広島中町ビル2F
☎ 0570-087-118

福岡

〒810-8530 福岡市中央区薬院3丁目1番24号
☎ 0570-087-118

パナソニックのバーチャルショウルーム



ワークプレイス マイキング をめぐる旅

A journey through workplace making

ワークプレイスや
それを取り巻く「場」を
どう育てていくか、
さまざまな事例に
ふれていきます。



Vol.03

多拠点を行き来する働き方の可能性
「TORIKKA TABLE & STAY」



継続能力開発(CPD) 自習型認定研修

設問

次のうち誤っているものはどれか。

- a. プロップテックとは不動産とテクノロジーを組み合わせた
デジタルソリューションである。
- b. WELL認証の評価項目にバイオフィリックデザインの概念は
含まれていない。
- c. 京都府庁旧本館は、現在も使用されている日本最古の
官公庁舎である。

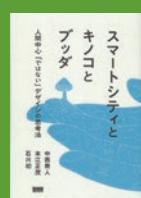
関連情報は本誌に掲載されています。

建築士会CPD制度の回答は下記Webサイトから。
<https://www.kenchikushikai.or.jp/cpd-new/cpd-index.html>

この情報誌は、公益社団法人 日本建築士会連合会の継続能力開発
(CPD)の「自習型認定研修」教材として認定されています。

皆様のご意見をお聞かせください

皆様のお役に立てるよう、『建築設計REPORT』の編集内容を
より充実させていきたいと考えています。下記サイトにアクセス
いただき、5問程度のアンケートにご協力ください。



抽選で10名様に
今号特集で監修いただいた仲 隆介氏
(京都工芸繊維大学名誉教授)のおすすめ本、
『スマートシティとキノコとブッタ
(中西泰人、本江正茂、石川 初 著)』
を差し上げます。

【応募締切】
2025年8月30日(土)



アンケートはごちら→